

目的 衣服の色彩は、着用者の肌色、着用する他の被服の色との調和、着用の季節、場面、流行などによっても変動するが、本研究では、衣服のスタイルを取り上げ、色との適合性について検討した。衣服スタイルと色との関連性については、加藤らが、多くの観点から研究しており、衣服スタイルと色が複合して与えるイメージを明らかにしている<sup>1)</sup>。ここでは、ある衣服スタイルに適合すると認知されている色を測定、その認知に一致性があるかどうかを検討した。さらに、その認知に一致が認められるとき、その認知基準の1つとしてイメージを考え、その衣服スタイルと色のイメージの一致がどのように寄与しているかを検討した。

方法 若い女性が比較的よく着用すると思われるワンピース、スーツを6種選定した。これらのスタイルに対して適合度の判定に供した色は、赤、黄、青の3原色に加え、女性の衣服に使用頻度の高いベージュ、空色、さらに紫の6色とした。各スタイルはカードに描き、各色紙をカードに添付して対象者に配布、各スタイルと各色との適合度を7段階の評定尺度を用い測定し、各々のイメージは13対のSD尺度上に評定(平成3年6月)した。

結果 各衣服スタイル別に適合の程度によって色に順位を付け、ケンドールの一致性係数を求めたところ、もっとも一致性の悪いスタイルは0.067、もっとも一致性のよいスタイルでは0.774を示した。いずれのスタイルについても一致性係数は統計的に有意であった。なお6種のスタイルのうち2種については、色とのイメージが一致した結果を得た。